

## Eine Strasse, Lucile

Es ist doch was wie Ernst darin.  
Ich will einmal nachdenken.  
Ich fange an so was zu begreifen.

Sterben - Sterben —

Es darf ja Alles leben, Alles, Alles, Alles  
leben.  
Alles, die kleine Mücke da, der Vogel.

Warum denn er nicht?  
Der Strom des Lebens müßte stocken,  
wenn nur der eine Tropfen verschüttet  
würde.  
Die Erde müßte eine Wunde bekommen  
von dem Streich.

Es regt sich Alles,  
die Uhren gehen, die Glocken schlagen,  
die Leute laufen, Leute laufen, laufen.  
das Wasser rinnt und so  
so Alles weiter bis da, dahin —

— nein!

Es darf nicht geschehen, nein!  
ich will mich auf den Boden setzen und  
schreien,  
schreien, daß erschrocken Alles stehn  
bleibt,  
Alles stockt, sich nichts mehr regt.

Das hilft nichts,  
das ist noch Alles wie sonst,  
die Häuser, die Gasse,  
der Wind geht, die Wolken ziehen.  
"Die Erde müßte eine Wunde  
bekommen..."  
— Wir müssen's wohl leiden.

Ich setze mich auf deinen Schoß,  
du stiller Todesengel.  
Es ist ein Schnitter, der heißt Tod,  
hat Gewalt vom höchsten Gott.

Du liebe Wiege,  
die du meinen Camille in Schlaf gelullt,  
ihn unter deinen Rosen erstickt hast.  
Du Totenglocke,  
die du ihn mit deiner süßen Zunge zu  
Grabe sangst.

Viel hunderttausend ungezählt,  
was nur unter die Sichel fällt.

Es lebe der König

## 道、リュシール

でもここで真面目に考えるべきことがあるわね。  
もう一度よく考えてみることにするわ。  
私は何かを掴み始めている。

死ぬ — 死ぬということは —

—でもすべてのものが生きることを許されているはずよ、  
すべてが、その小さな虫も、鳥も。

ではなぜ彼は生きてはいけけないの?  
生命の流れは、その中のたった一滴がこぼれただけで、  
止まってしまうなくてはならないのに。  
大地はその鞭の一撃で傷を負わねばならないのに。

すべてが動いているわ。  
時間は過ぎて行く、鐘は鳴る、  
人々は行き交っている、行き交っている。  
水は流れている、そしてそう、  
ほかにもすべてが向こうまで、その方へ —

— いいえ!

そんなこと[夫が処刑されたこと]はあってはならないわ、  
だめよ!  
私は地面に這いつくばっても叫びたい。  
すべてが怯えてその場で固まり、すべてが止まり、  
もはや何ひとつ動けなくなるように叫んで訴えたい。

それも無駄なのね。  
それら以外のものは以前のまま。  
家々も、通りも。風は吹き、雲は流れて行く。  
[大地は傷を負わねばならないはず]  
じゃなかったのかしら...  
— 私たちはきっとそれに耐えなくてはならないのね。

私はあなたの膝の上に身を任せるわ、  
寡黙な死の天使さん。  
これは草刈り男で、その名を「死」というのね。  
「死」はいと高き神の力を持っているのね。

親愛なる揺りかごよ[死のこと]、  
私のカミーユ[処刑された夫]を寝かしつけた揺りかごよ、  
彼を自分のバラの下で窒息させた揺りかごよ。  
重い鐘よ、  
甘い舌[鐘の音のこと]で歌って墓へと送った鐘よ。

その鎌の刃のもとに倒れたのは  
数えられることもないけれど、何十万人にもなるのよ。

国王万歳!